

令和3年度入学式式辞（全日制）

●桜は人の心を春にし、咲き誇る菜の花は命の息吹を我々に伝えてくれます。

万物に新しい生命の躍動を感じる季節の中、晴れて長崎県立諫早高等学校生となった281名（諫早高等学校附属中学校生となった120名）の新入生の皆さん、入学おめでとう。皆さんの入学を在校生及び教職員一同、心から歓迎します。

●今日という日を夢見て、これまで懸命に努力を重ねてきた新入生の感激はもとより、皆さんを励まし、支えてこられた保護者の方々の、お喜びも、さぞかし大きいことと拝察いたします。心からお祝い申し上げます。

●諫早高校は、本年度百十年目、附属中学校は十一年目を迎えます。中高一貫校としての歴史は浅いですが、一世紀を超える伝統の中で培われた「諫高魂」を胸に、素直でひたむきな生徒達が日々、懸命に学んでいる「決して楽ではありませんが、明るく、楽しい学校」です。この伝統はそれぞれの年代で先輩達が少しずつ積み重ねてできた物です。地域の人々の熱い支援と諸先輩の軌跡を胸に、これからの学校生活を謙虚に、そして懸命に励んでください。そして、皆さんが、今からの時代に向けて、新たな伝統を作ることを大いに期待しています。

●さて、新入生の皆さん。いよいよ今日から本校の生徒として新しい生活が始まります。この記念すべき日にあたり、私の所感を二つ述べたいと思います。

<パワーポイントによる説明>

●まず一つ目は、校訓である「自立創造」

（高い志を抱いて、自分の人生を自分の力で切り開く）

の思いを大切にしてもらいたいと思います。今から話すことは、在校生にも昨年度話しています。入学後の本校での生活の参考にしてもらいたいと思います。

●自ら立つ「自立」

・他の助けなしで、一人で物事を行うこと

・独り立ちすること。独立。まさしく高校入学はその第一歩ですね

・今、皆さんは様々な人に守られて生活しています。保護者の方、先生方、友達、先輩、地域の方々に守られて生活しています。経済的自立はまだ先のことですが、学生時代は「言われなくとも主体的に行動できる」精神的な自立を育成する期間です。

・自分で朝起きる・言われなくとも勉強する・指示されなくとも部活の練習をする 等
たくさん自立を身に着けて欲しいと思います。

●創り出す「創造」

・新しいものを生み出すこと。

今の社会が最も必要としている一つです。コロナ禍で辛い出来事が多い中、コロナ禍でも、いやコロナ禍だからこそ、今までに無い新しい発想やアイデアが生まれてきています。

本校の文化祭、体育大会、クラスマッチ等は生徒が主体となり、企画運営を行っています。毎年新しい事にチャレンジしています。まさしく創造し、新たな諫早高校(附属中学校)の歴史を築いています。学校は生徒の皆さんが主役です。皆さんの創造力で諫早高校(附属中学校)に新たな歴史(伝統)を築いてください。

●二つ目は、人間の器(うつわ)についてです。

あの人は器が大きい人だ：度量が大きい。全てを受け入れる包容力のある人。寛大な・寛容な・懐が深い・我慢強い。大義のために自分を犠牲に出来る。相手の失敗を許すことが出来る。「大器晩成」という言葉にも「大器の「き」は「器(うつわ)」という字が使われています。

人間の器とは、人間の能力や人格の大きさを意味しています。

●では、能力や人格は持って生まれた物でしょうか。

たしかに、運動能力が高い人、歌が得意な人、数学が得意な人、等 生まれながらにして、人は個性を持っています。人間の能力はある程度は生まれ持ってきているのかもしれませんが。しかし、それだけでその人の器の大きさが決まるものではないでしょう。

ここからは、君たちの想像力を働かせて下さい。

君たちの器はどのような器ですか。また、どれくらいの大きさですか。

チョットイメージが付きにくいので、具体的な物を取り上げて想像してみましよう。

●部活動・勉強・趣味のどれかを選んで、その器にしましよう。

両手で、その器(自分が持っている能力や才能)を表現してみてください。

どのくらいの大きさの器になりましたか？

では、その器に水を入れます(努力という水です)

今までの自分自身の努力を考えて入れて下さい

自分の器に対してどれくらい入りましたか？

自分の器に対して、満タンの水を入れるのは、自分の限界に挑戦している状態です
ほとんどの人は8割ぐらい？

◎少し頑張って努力の水を満タンにしてみよう。【これがきつい・自分の限界に挑戦】

- ・もう少し頑張って、少し溢れるぐらい努力してみよう。
- ・溢れるのはもったいないので器の縁が伸びてきます。
- ・また少し頑張って溢れさせよう。また縁が伸びてきます。……
- ・器がどんどん大きくなります。

◎努力の水を器の半分入れよう。【人にとっては楽な生き方】

- ・器は粘土みたいな物でできていると想像して下さい。
- ・上半分の縁はカラカラに乾いて、崩れていきます。
- ・少し小さくなった器には水が満タンですが、きついので、また水を半分にします。
- ・また、乾いた縁が壊れていきます。……器がどんどん小さくなります。

◎どうですか、想像できましたか？ それでは、画像で見てもみましょう。

◎最初は小さな器です、「努力という水」を溢れんばかりに入れ続けると

◎逆に、「努力という水」を入れるのを怠ると

◎また、気合を入れて、「努力という水」を溢れんばかりに入れ続けると

最後にはこんなに大きな器になれる

<パワーポイント終了>

●どんなに大きな才能や能力を持っていても、努力しなければ、せっかく持っていた才能や能力は、小さくなってしまいます。

反対に、最初は小さな才能や能力かもしれないが、コツコツ努力すれば、少しずつかもしれないが、大きくなる。という話です。

●さて、昨年から続いている新型コロナウイルス感染症は、グローバル社会に生きる我々に、様々な課題を突き付けいます。数十年前ならば、ある地域だけで起こった風土病で終わったはずが、今のグローバル社会では、瞬く間に世界的な流行となる。すなわちパンデミックを引き起こす。そして、今からこのようなウイルスによる現象は起こり続ける可能性があります。

●また、新型コロナウイルス感染症関連でたくさんの悲しいニュースを目にします。

感染者に対する差別や誹謗中傷、咳をしている人への暴言、世界に目を向けるとアジア人への人種差別等、同じ人間として、あまりにも悲しい出来事だと嘆いています。

●しかし、コロナ禍だからこそ、わかったことも数多くあります。3月に卒業した卒業生の言葉を紹介します。

【コロナ禍で様々な悔しい思いはしたけれど、コロナ禍だから気づかされたことがあります。それは、当たり前のことの大切さです。

●授業が行われることは当たり前。臨時休校を経験し、授業の大切さを思い知り、一つ一つの授業を以前より集中して受けるようになった。

●部活動の練習ができる事は当たり前。練習できない経験をし、毎日の練習の大切さを思い知り、以前より集中して練習するようになった。】

●困難な事が起こったとき、それによって自分自身を見直す機会ととらえ、ポジティブに行動できる人は強いと思います。そして、そこには、「自立」「創造」といった力が必要であり、その力を身に着けるために、学校生活があるのではないのでしょうか。

●本校では学習・部活動・学校行事等により、努力という水を満タンにする様々な仕掛けや、校訓である「自立創造」の精神を養う仕掛けが数多く準備されています。しかし、実際に溢れんばかりの水を入れたり、心を養ったりするのは、君たち自身です。君たち自身のこれからの心構えや、姿勢にかかっています。

しかし、自分だけで水を入れ続けたり、心を養ったりすることは大変でしょう。不安でいっぱいでしょう。でも大丈夫です。君たちの周りには、友・先輩・先生方・保護者や地域の方々があります。皆で支え合いながら頑張ることができます。

●最後になりますが、春風の中に、新しい一歩を踏み出す新入生の皆さんが、それぞれの目標に向け、自分の器に溢れんばかりの努力という水を入れ、校訓である「自立創造」の精神を養い、高い志を抱いて自分の人生を自分の力で切り開いて行くことを祈念して式辞といたします。

令和三年四月八日

長崎県立諫早高等学校・諫早高等学校附属中学校長

原 田 尚 之